

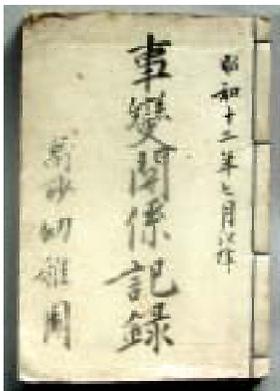
日本にとつて第二次世界大戦は、もつとも深刻な歴史の体験の一つです。『高砂市の近代編をつくるための』は、高砂市民の戦時中の経験を、高砂市のかぎり具体的に解明せねばなりません。そこでは、まず市の社会福祉課に連絡し、軍人恩給や遺族年金の受給者にかんする情報提供を求めました。現高砂市域において、れほどの人が召集され、戦地に赴いたかを知るためです。しかし、ライバルの保護の問題もあり、情報提供はむずかしいでしょう。今は遺族会にたいして、会員名簿などの提供を打診して、いづれ市立図書館に足をこび、関連文献を調査しました。むろん『歩兵第三十九聯隊史』のような基本文献は簡単に手にすることができました。しかし、私が期待していた伝記・自分史など、個々の市民が戦地や銃後の体験をつづつた書物はほとんど見つかりません。市民が出版した図書や寄贈先として、市立図書館が認知されていないということがあるのでしようか。

現時点で詳細がわかるのは、戦時下の学校の様子です。たとえば高砂幼稚園の『事変関係記録』（写真参照）は、「端午の節句まつりを行ひ、出征家族の子供のみ集め写真を撮り、各出征将士に贈る事とす」（一九四一年五月六日）などと記しています。

また高砂実科高等女学校（現・高砂高校）の一九四五

年八月二二日づけ学校日誌には、「休業／正午重大時局ニ対シ、天皇陛下大詔ヲ煥發セラレ玉音ヲラジオヲ通シテ拝聴ス。英ソ支ノポツダム宣言受諾（十四日）ヲ以テ米サレシモ直ニ解除トナル」とあり、このほか荒井地域に陸軍造兵廠大阪工廠の支廠が設置されたこと、高砂港や東二見に碇泊していた船舶が米軍機の攻撃を受け、た船が米軍機の高砂空襲を予告する伝單が、いたことなどが知られます。その詳細は闇の中ですが、力をあつて市民のみなさんに協力をお願いするほかありませぬ。ご自宅に戦時中の日記やメモ、あるいは回覧板・衣料切符・風景写真などがございませぬか。また戦場や動員先の工場での体験、たとえば銃掃射に恐怖したり、本流戦の陣地造営のために汗を流したりといふ経験を、私たちが語りついでいたでせうか。是非ご一報ください。

（市史編さん専門委員 三輪泰史）



▲ 高砂幼稚園『事変関係記録』の表紙